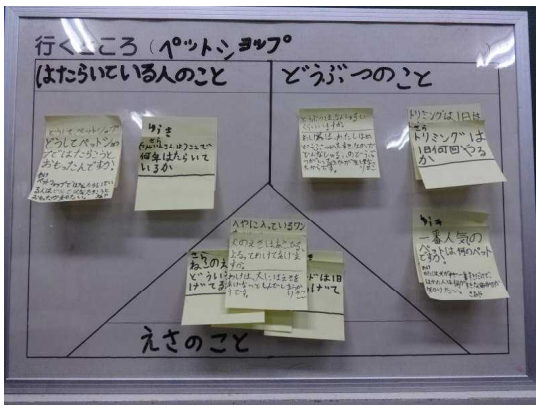
２年　　生活科研究授業のまとめ　（１２月４日）

１　単元名及び単元の目標

もっとなかよし　まちたんけん（3/12本時）

◎　地域で生活したり働いたりしている人々と，話したり，いっしょに活動したりするなど，繰り返しかかわる活動を行い，地域のよさに気付き，地域の人々や場所への愛着を深めるとともに，人々と適切に接したり，地域で安全に楽しく生活したりすることができる。



（資料１　付箋を仲間分けしたもの）

２　本研究授業の提案について

まち探検での訪問先についての質問を考える活動を通して，活発な話し合いができるよう，以下の二つを提案を行った。

(1) まず個人活動として，思いつくまま書きためた質問の中から，特に聞いてみたい質問をいくつか選んで付箋に書いた。次にグループになり付箋を見せながら質問を紹介し合った。質問したい理由を話す様子や自分の質問と比べながら聞く様子が見られた。その後，集まった質問の共通点を考えて質問を分類し，タイトルをつける活動に取り組んだ。共通点を見つけ分類するために，相手の話を注意して聞いたり付箋の質問を何度も読み直したりする姿が見られた。また，分類したものをどんなタイトルでまとめるか活発な話し合いができた。しかし，付箋に書き込んだり意見をまとめたりするところで時間がかかり，全体での発表が一つのグループだけになってしまった。

(2) グループで質問の共通点を共有するため，ワークシートをはさんだボードを活用した。付箋を貼ったりはがしたりする作業やタイトルの書き直しが，ボードの透明なシートの上だと大変やりやすく，二年生の子供たちでも考えを修正しながらスムーズに活動できた。質問の仲間分けをしたことで，見学での視点が「商品のこと・仕事のこと・働く人の気持ち」などのように明らかになった。また，視点ごとにまとめた適切な質問につながった。

以上のことから，質問の仲間分けやボードの活用は話合い活動を活発にする手だてとして有効であったと考える。しかし，今回はお店訪問の前に話合い活動を取り入れたため，自分と訪問先との つながりが弱く一般的な質問になりがちであった。単元の目標にさらに迫るには，一度訪問してか らもっと知りたい質問を考えることでよりに地域の人々との関わりを深める話合い活動になった のではないかと思われる。

３　本研究授業の授業技術課題について

学習課題や指示・発問が分かりやすくなるようにシンプルな指示や発問を心がけたが，細かな指示になってしまったところもあった。机間指導では，共通点をうまく見つけられずにいるグループには，教師の助言だけでなく手本となるグループの発表を聞くこともよい刺激になるということだったので，活用していきたい。質問を付箋にペンで書くよう指示したが，間違うことを心配し時間がかかってしまった。グループ内で読むことができればよいので，付箋は鉛筆書きにするなどの子供の反応や発達段階に合わせた指示が必要だった。

４　今年度の研究を振り返って

今年度は，町たんけんで見つけたものや気付いたことを紹介し仲間分けをする「どきどき　わくわく　まちたんけん」という７月の授業と，今回の内容で研究授業を行った。どちらも集めた情報や質問を共通点に着目して分類する活動だったが，考えをまとめるのに付箋やＹチャートやボードなどは有効だった。しかし，地域への関心や愛着を高めるためには，指導過程の見直しや話し合わせる課題設定の吟味が重要だということを改めて感じた。今後は今年度学んだことや反省点を生かし，自分の考えを持ち進んで伝え合おうとする児童の育成に努めていきたい。